

平成 25 年度第 1 回倉吉市地域産業振興戦略会の協議内容

【開催日時】 平成 25 年 11 月 6 日（水）午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分まで

【開催場所】 倉吉市役所大会議室（本庁舎 3 階）

【出席者】 倉吉市地域産業戦略会議委員

小野座長、石田市長、岩世委員、衣笠委員、高間委員、大津委員、竹歳委員、川部委員、佐々木委員、藪内委員、青戸委員、森委員、栗原委員

【事務局】 岩本産業環境部長、田中農林課次長、長石観光交流課長、美船商工課長、野田環境課長補佐、内川農林課長補佐、大本観光振興係長、小倉商工課企業立地係長、児島商工課地域産業振興係長

【傍聴者】 伊藤議員、高田議員

1 開催目的

- (1) 地域産業振興ビジョン策定後、新たに実施している取り組み、実施していた取り組みを強化したものの内容及び進捗状況を報告し、その取組内容について協議を行う。
- (2) 地域産業振興戦略の推進に向けた今後の方向性について、地域産業振興ビジョンの今後の取り組みを踏まえて協議を行う。

2 議 題

- (1) 地域産業振興ビジョンの進捗状況とその成果について
- (2) 地域産業振興ビジョンの推進に向けた新たな取り組みについて

3 協議内容

○委員 15 名（2 名欠席）中 2 名の変更があったため、自己紹介を行う。

○事務局から地域産業戦略会議の趣旨、数値目標の市民所得指数、雇用自立度の概要説明を行った。

○小野座長より数値目標の市民所得指数、雇用自立度について具体的な分析を含めて説明いただく。

【方向性 1 ものづくり産業の振興】

【委 員】

○地域産業振興ビジョンの全体的な意見として、事業の主な取り組み状況の報告ではなく施策・戦略・方向性にどのように繋がったのか評価をしていかないと、本来の意味の産業振興に繋がっていかない。

⇒来年に向けて、上位目標に対してどういう方向に作用したか、出来なかったのか評価がわかる資料を作っていきたい。

【委員】

○倉吉ブランドを統一性を持たせようとしているのか、倉吉としてのブランドを作ろうとしているのかよくわからない。

⇒倉吉ブランドを作るという明確な目標などは抱いていないのが現状。個々の皆さんの商品の販路が拡大して売れたときに、倉吉の名前が世に出ていくイメージをもっている。倉吉ブランド化については、皆さんで議論していただきたい。

【委員】

○地域ブランドは土地・地域での取り組みと商品が繋がってくるもので、その辺も検討することが必要でないか。

【委員】

○今後、新商品等の開発支援について、商工会議所に窓口を設けて、市と連携しながら取り組みについて協議してほしい。

⇒商工会議所に農商工連携、新商品開発等のために地域産業推進員を2名配置していただくように事業委託している。補助制度の活用、空き店舗等のマッチングの最先端を商工会議所をお願いしている。倉吉市の新商品、販路開拓をどうしていくのか他市の事例等も含めて連携して進めていきたい。

【委員】

○販路開拓支援事業補助金の実績にたいして、どのような効果があったのか、その後の状況も含めて分析が必要。

⇒ある事業で、コンペ型の企画型の事業提案の事業をしたが、この事業を活用し納税と雇用創出を引き続き取り組みたいと言っておられた事業者もある。どういった活動に、どういった補助金を出して、対象事業者の現在の成果として、商品製造・商品販売の進捗状況等追跡していくことも検討したい。

【委員】

○新規企業の誘致のところの新規雇用の人数は当初の予定であるが、実態として現在の雇用状況をきちっと説明していただきたい。いきなり正社員の雇用は難しい。最終的に正社員での雇用が目標となるが、業態変更の途中の過程で、一気に正社員は難しい中での支援の可能性はどうか。

⇒現段階では、パート、アルバイトに着目した補助制度は考えていない。正社員を目標にさせていただくことになる。県ではトライアル的な支援もあるので、県の支援制度の活用を検討していただきたい。既存企業の規模拡大については予定通り。今後順次予定に近づく

よう雇用されている。

【委員】

○雇用状況では、若者、各世代のニーズ、雇用自立度の年代、世代あるいは男女別での状況、製造業は男性が多いとか状況はどうか。

⇒雇用自立枠はすべての年代がターゲットで、新規の企業誘致では年齢制限はありません。幅広い雇用をしていただいているが、幹部候補、一定の管理職も男女問わず経験重視で採用されている。

【委員】

○誘致をした企業が雇用することは大きな成果ではあるが、ものづくり産業の振興の観点からすると、誘致企業によって産業の裾野を広げるといふ点からの取り組みについて教えていただきたい。人材確保支援の IJU ターンの促進での働く場所が重要であるが、担当課との連携がなされているのか。

⇒各誘致企業のものづくりについて、説明し、新たなものづくりへと進んでいくという点では有効に作用している。移住の関係で、具体的な連携はしていないが、求人情報の情報提供をおこなっている。

【委員】

○IJU ターンでは、例えば創業支援と移住の組み合わせで、政策的、戦略的にできることがないか考えていただきたい。

企業誘致のものづくりでは、誘致したことにより、その産業が育つ視点が必要でないのかと感じた。

【委員】

○将来的に、研究型・開発型というものを目指してほしい。農大の活用、鳥大との連携を視野に入れて研究開発型と中部には農産物ではなく JA とも連携しながら、県と一緒に検討してほしい。

【方向性 2 農商工連携による新産業の創出】

【委員】

○農商工連携の新しい加工商品を加工する際に中部、倉吉で加工施設がない。地元で商品化しないといけない。JA が全てするわけにもいかない。既存企業が、加工施設を増設したり、新設する場合に何らかの支援があればいい。

倉吉のスイカブランド化も平成 25 年度で終了してしまう。プラン再構築をしていくなかで早い年度で支援の検討をしていただきたい。

物産展参加によるアンテナショップ販売の実績があるが、インショップ的な販売でないのか。JAでも関西圏のスーパーで、月3店舗で延べ6日間販売している。倉吉の食品加工商品等を紹介してもらえれば販売可能である。

⇒商品の販売については、JA、県と連携しながら、協力して実施していきたい。

【方向性3 魅力あるまちづくりと観光業の振興】

【委員】

○体験型教育旅行誘致協議会のようなものを行政で立ち上げてどんどんやってほしい。

⇒体験型教育旅行誘致協議会は、地元の民泊をしておられる方、畜産農家の方、地区公民館、関金温泉組合が協力して実施している。

【委員】

○倉吉市随一の温泉地ですので、自然体験だけでなく、将来のことを考えると、関金温泉活性化として天然資源である温泉に力点をおいた取組にしてもらいたい。

⇒今取り組んでいるグランドデザインの中で検討している。

【委員】

○倉吉市が試行的にした民泊等プログラムに参加したが非常にいいプログラムだと思った。今は、修学旅行的な県外からの教育旅行的なことをされているが、もう少し、県内の利用、短大、他大学と県外大学との学生交流等で地域資源を活用した体験をする場合の宿泊等のバックアップをしていただきたいと感じる。また、関金温泉のグランドデザインでは、どのような連携をされるのか。

⇒関金温泉グランドデザインは、関金温泉旅館組合に補助金を出して、ワーキンググループを作って策定していただく。地域おこし協力隊で今年の7月に若女将を配置した。若女将にもワーキンググループに参加している。

【委員】

○元気条例には、「市民は、地域の事業者が提供する商品やサービスに愛着を持ち、購入するよう努めましょう。」とあり、倉吉ブランドで開発したものをもっと市民が知り、購入する努力をしていかないといけない。市民に広く周知をしてほしい。

⇒このビジョンの中で、洩れている点ではないか。条例にも明記されており、制定された背景の中には、地域内での経済循環を大きく捉えているところもあり大きく議論していかないといけない。

【委員】

○このビジョンは何年計画だったのか、明記がされてあったか

⇒このような全体会議の論議を経て、上位目標との関係での評価や全体の振り返りの中で見直しが必要であればしていきたい。

【委員】

○例えば、今の観光の流れでいったら、例えば5年前と今と全く変わってきている。

【市長】

○新産業振興ビジョンは作りっぱなしではいけない。

通常計画は5年毎に見直すのが普通ですので、ひとつの区切りとして、5年を目途に見直すべきかも含めて議論したらいい。やはり、点検をしながら必要な見直しをかけていくのが現状として出てくる。

【委員】

○魅力あるまちづくりと観光業の振興は、観光資源の整備が目標ではなく、宿泊、ホテル旅館業の観光客が増えることでどうなるのか突っ込んで検証していくべき。体系の不整合が感じられるため、一度この体系を、見直す必要があると感じる。

※委員の方々の意見を踏まえ、来年度、体系を含めた見直しをしていくのか早い段階で協議していきたい。

第7回 地域産業振興戦略会議(H25.11.6)での主な意見

(全体)

- ・ ビジョンの主な取組の成果の報告ではなく、目標(地域産業振興の方向性・戦略)に対してどういう成果があったのかを議論するのが必要
- ・ 各取組みが政策、戦略、方向性についてきちっと議論されないと取組がよいか悪いかの評価ができない。
- ・ 全体的にビジョンは5年ごとに見直していく
- ・ 体系的に見直す必要がある

(ものづくり産業振興)

- ・ 新商品開発支援での倉吉ブランド化の支援の考え方の整理が必要
- ・ 地域ブランドは土地、地域での取組みと商品が繋がってくるもので、その辺も検討すること。
- ・ 新商品の開発支援について商工会議所、市で今後の取組みについて協議してほしい
- ・ 市場開拓・販売促進イベント参加の支援で取組み実績があるが、結果の内容と現在の状況の報告(補助金が適切に使われて効果があったのかを見極める必要がある)
- ・ 企業立地促進補助金制度の活用で取組み実績の一覧表は当初の人数で実態としてどうなっているのかが重要(当初の定員数に対して雇用状況や推移)
- ・ EVカー関連産業の新規参入促進が現状としてもものづくり振興に入れておく必要があるか
- ・ ものづくり産業振興という点では誘致企業によって産業のすそ野が広がる点からの取組みについても知りたい。
- ・ 人材確保支援の点からIJUターンの促進を政策的に戦略的に検討してほしい
- ・ 将来的にもものづくりのために農大の活用や鳥大、JAと連携し研究型・開発型を目指してほしい。

(農商工連携による新産業の創出)

- ・ 農商工連携により新しい加工商品を加工する施設がない。市内業者、企業が加工施設を増設・新設する際の支援が必要
- ・ 倉吉スイカブランド化のためのハウス導入経費の助成が平成 25 年度までなので、継続的な支援を
- ・ 農産展参加によるアンテナショップ販売で、JAでのインショップ販売等に食品加工品を紹介してもらえれば販売できる。

(魅力あるまちづくりと観光業の振興)

- ・ 体験型教育旅行誘致協議会のような協議会を行政で立ち上げて、関金温泉の活性化を(温泉に力点をおいた取組)
- ・ 関金温泉で県外の利用だけでなく県内の利用者を増やす取り組みが必要
- ・ 観光資源の整備が目標でなく宿泊施設がどうなったのか、観光客が増えることによってどういう効果があったのか突っ込んだ検証が必要
- ・ 創業支援・起業支援、空き店舗活用を観光に入れるとエリアが限られる

(今後の取組について)

- ・ 倉吉ブランドで開発したものをもっと市民が知り購買する協力の働きかけが必要

倉吉市地域産業振興ビジョンの今後の取り組みについて (地域産業振興戦略の推進に向けた今後の方向性)

地域産業の振興の方向性 1 : 「ものづくり産業の振興」

【地域産業振興戦略 1 : 既存企業の経営基盤強化】

- ①企業ニーズの把握に努めながら、企業立地促進補助金制度、制度融資など各種支援策の情報提供により、既存企業の経営基盤の強化・安定化に向けた支援を進める。

【地域産業振興戦略 2 : 企業誘致】

- ①倉吉市関西事務所を中心とした企業誘致活動を推進する。
- ②「倉吉市企業立地促進補助金制度」の充実や西倉吉工業団地の再整備、灘手工業用地を始め、新たな工場用地の確保により、その受け皿の整備を図る。

【地域産業振興戦略 3 : 環境・エネルギー産業の育成】

- ①今後の成長分野である太陽光発電及びEVカー関連産業の誘致活動を行う。
- ①住宅用太陽光発電等補助金について、新たに家庭用燃料電池を設置する個人に対し補助金を交付することを加え、家庭用燃料電池関連産業等の振興を図る。
太陽光発電設備の県内事業者の設置(施工)条件に加え、販売事業者も県内事業者と規定し、県内における太陽光発電関連産業等の振興を図る。
- ③倉吉市公共施設を活用した太陽光発電屋根貸し事業を推進するため、対象施設の調査を実施する。
- ④EVカーの普及の推進をするため、倉吉市公用車のEVカー導入を推進する。
- ⑤倉吉市における小水力発電は、関金地区に天神野土地改良区と山守電気共同利用農協が設置している小水力発電所が2箇所あり、平成24年度から26年度の3カ年で農業農村小水力発電施設導入事業を活用し、施設改修を実施する。
- ⑥バイオマス発電も含め、バイオマス利活用について幅広く研究し、関連企業の誘致活動を推進する。

地域産業の振興の方向性 2 : 「農商工連携による新産業の創出」

【地域産業振興戦略 1 : 地域ブランド商品の開発】

- ①農商工連携組織(新産業共通基盤等)と連携し、農産物等の地域資源を活用した商品の開発に向けた取組みを支援し、地域ブランド商品の開発を促進する。
- ②地域商品の魅力向上のため、商品のブラッシュアップを図る取組みを継続する。
- ③農林業者自らが加工・製造・流通・販売までを主体的に取り組む6次産業化を推進するため、施設整備等を支援し、6次産業化による農林業者の所得向上を図る。

【地域産業振興戦略 2：販路開拓】

- ①「倉吉市商品等販路開拓支援補助金」制度の継続実施により、市内中小企業者の商談会等への出展を促進し、新たな販売ルートの確保・創出を図る。
⇒現行、1回限りとしているが補助の上限 40 万円を超えない範囲で複数回の出展を可とする方向で検討。
- ②地域商品の認知度の向上及び販売促進を図るため、個々の事業者の商品の販路開拓の方向性を把握し、各種商談会及び物産展の情報提供を行い、打って出る事業者を支援する。
- ③市内中小企業者に対し、首都圏、関西圏における商談会や物産展等の出展機会を提供し、打って出る事業者の掘り起こしを進める。
- ④都市部の消費者に対して発信力のある本市の農産物と併せて加工品をPRすることで商品の魅力を高め、一層の販路拡大を図る。

地域産業の振興の方向性 3：「魅力あるまちづくりと観光業の振興」

【地域産業振興戦略 1：にぎわいのあるまちづくり】

- ① 起業の支援及び中心市街地等の空店舗の有効活用を図るため、空店舗の情報発信と利用希望者とのマッチングを図る。
- ② チャレンジショップ運営事業を見直す。
⇒平成 15 年度より 3 店舗でチャレンジショップを実施しているが、飲食でのチャレンジショップの運営等について検討していく。
- ③起業の支援及び中心市街地等の空店舗の有効活用を図るため、「空店舗活用・家賃補助」、「空店舗活用・店舗改装補助」制度の活用促進により、魅力ある商店街づくりを目指す。
⇒補助金の範囲を現行の伝建群地区より銀座通り商店街まで拡充し、補助の上限及び割合を見直す。
- ④中心市街地活性化基本計画の制定に向けた取り組み。
⇒中心市街地活性化基本計画を策定するための現状分析、ニーズ分析を行うと共に、各種事業との連携・調整を図り、中心市街地活性化協議会の設置を検討する。

【地域産業振興戦略 2：地域観光魅力の創出】

- ①平成 24 年度より民間主導での運営を開始した「くらし観光・MICE 協会」との連携強化を図る。
- ②活用可能な地域資源を掘り起こし、観光素材、観光商品化に向け磨き上げるための検討、支援を行う。

- ③ターゲットを絞った観光モデルコースの設定に向け、各観光スポットを単に結ぶモデルではなく、倉吉“ならでは”の体験メニューを盛り込み、倉吉“らしさ”を味わえる店舗などに宿泊を加えたコースを作成。
- ④伝統産業や農業資源を活用した、短時間でできる手軽な体験から、職人の指導を受けながら本格的なモノづくりに挑戦する体験まで、様々なニーズに応えられる体験メニューの設定を事業者と連携し推進する。
- ⑤関金温泉の活性化に向け「観光分野」「健康分野」「介護分野」を連携させ、保養温泉地として長期滞在者の増加をはかる新たなメニューづくりをおこなうとともに、地域住民に多く利用され親しまれる温泉地を目指す「関金温泉プラチナ（白金）プロジェクト」を推進する。

- ⑥民泊を利用した農業体験ツアーを商品化し都市部からの誘客を行うとともに、都市部住民や小学生との交流を促進するため地域資源を活用した体験型教育旅行の誘致にむけた取り組みを進める。

【地域産業振興戦略3：観光資源の整備】

- ①観光ガイドの継続したスキルアップ研修と、ガイド以外の事業者・地域住民等も対象とした、この町の魅力を伝える人材の養成を行う講座を開催する。
- ②エキパル倉吉や白壁土蔵群の観光案内所において、来訪者に観光情報が的確にわかるよう情報の集約・共有の徹底を図る。
- ③マーケティングを明確にするため、倉吉の観光客の入込や経済効果について検証を行う。
- ④圏外から車で訪れる観光客に対し、適切で見やすい案内板か調査し計画的な観光案内板等の整備を行う。

【地域産業振興戦略4：観光客の誘致】

- ①鳥取県の観光プロモーターと連携し、首都圏、関西圏、中京圏等の旅行代理店に対し積極的な訪問セールスを実施する。
- ②倉吉観光DVDを多方面で活用することで、倉吉の認知度を高める。
- ③倉吉市関西事務所と連携したセールスプロモーションを実施する。
- ④観光大使に委嘱した著名人の知名度や人脈を活用して、本市の観光PRを図るとともに、本市に親しみと強い思い入れのある方をくらし観光・MICE協会により「倉吉観光親善特使」として認定し、周囲の人々に対して積極的に本市のPRを行ってもらおう。
- ⑤経済効果の高いコンベンションの誘致に向け、本市独自の支援制度をPRしていくとともに、(財)とっとりコンベンションビューローなどと連携した誘致活動を行う。